

【目的】 一般にヒトの着衣行動は、季節・環境等の変化によって影響を受ける。この季節変化を日照時間の長短で表し、衣生活を行う上での外界に対するヒトの反応を調査すべく実験を試みた。ここでは、16および8時間の照明照射時間を過ごした後、寒冷暴露し、その時の体温調節反応および着衣行動に男女差が存在するかどうかを検討した。

【方法】 環境気温25℃、R.H.50%、気流15cm/s以下の人工気候室で、実験条件Long (5000Lxの照明照射16時間+睡眠8時間) および実験条件Short(5000Lxの照明照射8時間+照明10Lx以下8時間+睡眠8時間) の2種類の条件で2日過ごした後、60分間で気温を10℃まで徐々に降下させる寒冷暴露実験を行った。その時、3枚の白衣を用意し、自由意志で任意に着用できるようにし、着用時間を記録した。

被験者は健康な大学生男女6名ずつで、女性は黄体期に測定した。測定項目は、直腸温と7ヶ所の皮膚温、温冷感・快適感および白衣の着用時間である。

【結果】 1, 直腸温は、女性でLongはShort より高い傾向を示し、変化量もその上昇度が大で有意差($P<0.05$)が認められるが、男性にはLongとShort 間で有意差は認められなかった。2, 末梢部の皮膚温は、女性でLongはShort より下降が大で、前腕・手背・足背部で有意差($P<0.05$)が認められるが、男性には認められなかった。3, 温冷感・快適感は、男女に有意差は認められなかった。4, 白衣の着用時間は、女性でShort はLongより早く、1枚目を着用した時間に有意差($P<0.05$)が認められたが、男性には認められなかった。総着用枚数は女性が男性より有意に多かった。これらについて更に検討し、報告する。